

計画研究 A01 (課題番号: 06208206)

琉球王国の構造に関する研究

研究代表者: 豊見山和行・琉球大学・教育学部・助教授

1. 研究項目: A01 琉球・沖縄の政治と社会
2. 研究課題名: 琉球王国の構造に関する研究 (課題番号: 06208206)
3. 研究期間: 平成6～9年度 (1994～1997)
4. 交付研究費: 平成6年度 4,200千円
平成7年度 5,500千円
平成8年度 5,000千円
平成9年度 3,700千円 合計 1,840千円
5. 研究組織(氏名: 所属機関・部局・職)
(研究代表者) 豊見山 和行: 琉球大学・教育学部・助教授
(研究分担者) 池宮 正治: 琉球大学・法文学部・教授
(研究分担者) 高良 倉吉: 琉球大学・法文学部・教授
(研究協力者) 安里 進: 浦添市教育委員会文化課・主幹
(研究協力者) 金城 善: 糸満市社会課・社会係長
(研究協力者) 平良 勝保: 沖縄県労働金庫
(研究協力者) 田名 真之: 那覇市歴史資料室・室長
(研究協力者) 萩尾 俊章: 沖縄県立博物館・学芸員
(研究協力者) 深澤 秋人: 沖縄県立図書館・史料編集室
(研究協力者) 中村 洋子: フリー編集者

6. 研究目的

本研究は「琉球・沖縄の政治と社会」に関する課題として、琉球王国の内部で作成された史料を用いて上記のテーマにアプローチするものである。近年の琉球王国史研究は、基礎史料集の刊行によって大きく進展している。とくに「沖縄県史料」「那覇市史」「琉球王国評定所文書」各市町村史などの刊行があげられる。これらの史料整備によって次のような分析が可能となってきた。第一に、琉球王国の構造と官僚システムの研究である。この分析のためには、辞令書が一つの分析視角を与える。す

なわち、16世紀から登場する辞令書を王国の崩壊(1879年)までを射程に入れて分析する研究は、いまだなされてない。古琉球辞令書の研究は、近年詳細な分析が行われているが、それ以外の辞令書研究は、皆無に近い。そのため、中央官人から地方役人をも任命する辞令書を一貫した方法による分析が必要とされる。さらに、官僚システムの研究は、琉球の国家機構がどのように運用されていたか、と言う研究課題へ連動する。そのための分析史料としては、現在刊行中の『琉球王国評定所文書』(全18巻、刊行予定)が重視される。『評定所文書』は、首里王府の中核機関である評定所に集積された文書や日記であり、琉球の国政・外政、等々を分析する上で不可欠の史料群であるが、これらを用いた研究は少ない。評定所を起点に発給・受給される文書が、どのように作成され、どのようなルートで発給・受給されるかを分析することで首里王府(広く言えば琉球国家)機構が解明されよう。第二に、『那覇市史』において収集・刊行された「琉球家譜史料」がある。琉球家譜は、17世紀後半以降、首里王府の系図座で作成された公文書であり、家譜の有無によって士族身分と百姓身分を截然と区別する機能を果たした。しかしながら『那覇市史』はすべての家譜を網羅して刊行しているわけではない。また、宮古・八重山・久米島などにも家譜史料が少なからず残されている。これらの家譜史料群を体系的・網羅的に分析・研究することによって近世琉球社会の特質へ迫ることが可能である。

以上の課題を分析・研究するためには、大量の活字史料を統一した基準で情報化する必要がある。そのことによって旧来の方法では成し得なかった研究の高度化が実現されるものと考えられる。その他、琉球王国の構造を分析する上で重要な新史料の発掘および電子情報化をも目的とするものである。

7. 研究実施計画

実施計画は、4年間分をまとめると次のようになる。研究組織の各メンバー(研究協力者を含む)が関係史料の収集にまず着手し、史料の存在状況、所在状況などの情報交換を行いパソコンへの入力を開始する。

研究の主要な対象史料は、「琉球家譜」「琉球王国評定所文書」史料などの活字史料と未刊行の史料に大別される。特に後者の未刊行史料は、史料所蔵機関(個人蔵を含む)などでの実地調査を開始する。その際、必要に応じて既刊史料の原本との照合など再調査をも行う。具体的には、国立国会図書館、国立公文書館、東大史料編纂所、法政大学沖縄文化研究所、琉球大学、平良市総合博物館、石垣市立八重山博物館などでの調査を計画した。

研究会を年4回ほど開催し、本研究に関連する研究者との情報交換を行う。

次に、歴史史料情報化のため「琉球家譜」データの入力を行う。最初に首里系家譜から着手し、順次・那覇系・泊系家譜へと拡大する予定である。さらに、久米島系家譜、宮古系家譜の入力をも予定している。同時に八重山系家譜の未刊行分の整理・収集にも着手する。

平行して、「琉球国評定所文書」のデータベースの作成に取りかかる。具体的には、第一に、同文書の既刊分(1巻~13巻)の各文書の詳細な編年目録の作成、第二に、人名・地名・官職・事件・船舶の種類・交易品等の索引の作成、等々を計画した。その他、琉球王国辞令書、中山世譜附巻などの電子情報化をも計画した。

最終年度には、テキストの正確性を期すための十分な点検が必要であり、さらに適宜補訂するためには原本との照合も必要とされ、それらの作業を行う。その際、必要に応じて既刊史料の原本との照合などの再調査をも行う。

8. 研究経過

平成6年度

：研究会の実施状況

(1) 沖縄3班合同「琉球家譜」研究会。当研究班を主体に「『琉球家譜』の情報化について」と題して研究会を行った。日時：9月24日(土)13時～17時。場所：沖縄国際大学南島文化研究所会議室。参加者12名。報告者と報告テーマは次の通りである。

新城 敏男：「八重山家譜について」

平良 勝保：「宮古家譜について」

田名 真之：「沖縄本島家譜について」

富島 壮英：「歴代宝案と家譜」

豊見山 和行：「県文化課収集フィルム(「沖縄の家譜」)について」

金城 善：「家譜のデータベース」

(2) 沖縄3班・総括班合同研究会。研究テーマは「歴代宝案」「琉球家譜」の情報化についてと題して研究会を行った。日時：11月20日(日)10～12時。場所：沖縄ホテル会議室。

(3) 総括班主催第3回「沖縄の歴史情報」研究会(日時：12月4日、於：京都教育文化センター)において、豊見山「琉球国の進貢貿易における護送船の意義について」と題して研究報告を行った。

(4) 沖縄3班合同研究会。日時：1995年2月18日(土)14時30～17時。場所：沖縄国際大学南島文化研究所。

報告者：新城 敏男「八重山における苗字の成立について」、コメンテーター：田名真之。

：史料調査等の実施状況

古文書調査を行い、八重山での家譜史料の所在を確認した。さらに、久米島の在地役人(地頭代)の旧家である上江洲家の文書調査を行った。その結果、総点数は約1500点ほどであることが判明した。その内の350点を整理し、史料カード化した(95年2月時点)。沖縄県文化課による『沖縄の家譜』調査で得られたマイクロフィルムの確認調査を行い、「毛姓家譜」、「尚姓家譜」、「孫姓家譜」、「文姓家譜」、「栄姓家譜」、他30冊、計35冊の家譜を確認した。

：データ入力状況

『那覇市史』家譜資料中の「首里系家譜」の入力をテキストファイル形式で行った。「琉球国中山王府官制」をフルテキストで入力した(首里王府の官僚機構の研究のため)。

平成7年度

：研究会の実施状況

(1) 沖縄3班合同研究会。日時：5月20日(土)17時～19時。場所：沖縄国際大学南島文化研究所。

赤嶺守「明清档案について」

金城善「沖縄関係官報記事目録データベースの作成について」

(2) 沖縄3班合同研究会。日時7月8日(土)14時30～17時。沖縄国際大学南島文化研究所。研究テーマ：「沖縄の地域史料の情報化について」

(3) 沖縄3班・総括班合同研究会。シンポジウム「沖縄の歴史情報研究の課題」。日時8月4日(金)13時～17時。場所：沖縄県公文書館。

：史料調査等の実施状況

東京調査において個人蔵(崎浜秀明氏)史料を豊見山が調査し、新史料(「新詮議」)を発掘した。以下のマイクロフィルムを複製し、総括班作成予定の画像史料の参考資料を収集し、総括班へ提供した。「勝連村南風原文書」(5本)、「田名家文書」(4本)、「東恩納文庫資料」(15本)、「那覇市史資料」(9本)である。

：データ入力状況

『那覇市史』資料の「首里系家譜」データをフルテキストで完成し、さらにデータベースソフト桐を使用して「首里系家譜」史料のデータベースを作成した。ついで「那覇・泊系家譜」のテキストファイル化に着手した。その他、古琉球・近世琉球の基本的な辞令書116点の入力を行い、テキストファイル化した。

平成8年度

：研究会の実施状況

(1)沖縄4研究班・沖縄国際大学南島文化研究所合同研究会。5月27日、第1回「人頭税研究会」を行った(於：沖縄国際大学南島文化研究所)。

(2)沖縄4研究班・沖国大南島文化研究所合同研究会。11月22日、第2回「人頭税研究会」(於：沖縄県立図書館宮古分館)を行った。

(3)総括班・沖縄4班合同研究会(1996年年8月29日30日、於：沖縄国際大学)を開催した。豊見山和行「琉球家譜の情報化の問題点」と題して報告した。

(4)総括班主催の研究セミナー(11月8日、於：大阪市立大学学術情報総合センター)において、豊見山和行「パソコン初級者のテキストデータ利用法」を報告した。

：史料調査

豊見山は沖縄県立博物館へ寄託中の「上江洲家文書」の未整理分を約300点余を確認し、目録化を同館学芸員とともにいった。高良倉吉は、奄美大島瀬戸内町立図書館・郷土館(古仁屋)所蔵の「須古茂文書」を調査し、古琉球辞令書の所在を確認し写真撮影によって収集した。収集史料は、「豊川家文書」(八重山石垣市)の8割程を紙焼き製本で入手した。

：データ入力状況

「久米村系家譜」「那覇系・泊系家譜」「中山世譜附巻」などをすべてテキストファイルで入力し、

平成9年度

：研究会

(1)総括班研究会(10月11日、於：大阪市立大学学術情報総合センター)において、豊見山和行「フルテキストデータ「琉球家譜」等の活用法」研究報告した。

(2)総括班・沖縄5班合同研究会(12月13日・沖縄県公文書館、14日・沖縄国際大学)を開催し、新史料を加えて豊見山「フルテキストデータ「琉球家譜」等の活用法(再論)」を報告した。

：入力中のデータ。

『琉球王国評定所文書』第1巻、第2巻、第3巻のフルテキストを作成した。

9. 研究成果の概要

本研究における主な研究成果は、論文・論著(詳細は10.主要研究業績一覧)と電子情報化に分け

られる。後者は、フルテキストデータベースの作成を目指して「琉球家譜」「琉球王国評定所文書」「中山世譜附巻」などの入力を行い、一定程度のデータを構築することができた（詳細は 参照）。

10. 主要研究業績一覧：

豊見山和行「上江洲家文書について」(沖縄県立博物館編『久米島総合調査報告書』pp111-121, 沖縄県立博物館発行、1995年3月)

豊見山和行「近世中期における琉球王国の対薩摩外交」(『新しい近世史』第2巻, pp188-223, 新人物往来社、1996年5月)

豊見山和行「琉球国の進貢貿易における護送船の意義について」(『第五屆中琉歴史関係学会議論文集』pp963-994, 福建教育出版社、1996年10月)

豊見山和行「御後絵から見た琉球王権」(『新しい琉球史像 安良城盛昭先生追悼論集』pp61-74, 榕樹社、1996年10月)

豊見山和行「琉球国の地域的構造について」(網野善彦・石井進・鈴木稔編『中世日本列島の地域性』pp113-138, 名著出版、1997年1月)

池宮正治「資料紹介『儀衛正日記』」(『琉大法文学部紀要日本東洋文化論集』1号、pp109-233, 1995年3月)

池宮正治『琉球古語辞典 混効験集の研究』(全369頁、第一書房、1995年11月)

池宮正治「組踊と中国演劇」(『新しい琉球史像 安良城盛昭先生追悼論集』pp153-171, 榕樹社、1996年10月)

高良倉吉「琉球辞令書の一覧表と収集現況」(『琉大法文学部紀要日本東洋文化論集』1号、pp313-327, 1995年3月)

高良倉吉「近世琉球における都市の論理」(『新しい琉球史像 安良城盛昭先生追悼論集』pp75-86, 榕樹社、1996年10月)

高良倉吉「古琉球期の奄美における給田の移動—須子茂文書が内包する情報のスケッチ」(『日本文化の深層と沖縄』国際日本文化センター、pp89-101, 1997年3月)

高良倉吉「琉球史研究からみた沖縄・琉球民俗研究の課題」(『民族学研究』pp463-467, 1996年12月)

高良倉吉「地域と海域—琉球王国における<内なる海>の事例から」(『地域の世界史1 地域史とは何か』pp330-360, 山川出版社、1997年7月)

11. 情報化資料の概要

主に「琉球家譜」と「琉球王国評定所文書」を機軸に、それに関連する諸史料のフルテキストデータベースの作成を加えて、以下のデータを構築することができた。

- (1) 「琉球家譜」首里系データベース(「桐」使用)
- (2) 「琉球家譜」首里系・久米村系・那覇系・泊系フルテキストデータベース
- (3) 「琉球王国評定所文書」第1巻・2巻・3巻フルテキストデータベース
- (4) 「中山世譜附巻」フルテキストデータベース
- (5) 「琉球国中山王府官制」フルテキストデータベース

(6) 「琉球辞令書」フルテキストデータベース